

1. 新世言 「子育てにマニュアルはない」 丸山敏秋 倫理研究所理事長 (P10~13)

全国で開催してきた「教育創生フォーラム」が、去る7月9日の仙台市で30回目となり、足掛け4年に及び一連の幕を閉じた。「よみがえれ日本の教育力~それは家庭からはじまる」が通しのタイトル。筆者が担当した基調講演で、一貫して訴えたことの一つが「子育てにマニュアルはない」という事実です。ところが世の中には「マニュアル人間」が異様に増えてしまった。「指示待ち人間」もそれに近く、人間のロボット化とも呼べる。しかしながら、子育ての原理原則はあります。親と子は見えない通路で繋がっていて、深く影響を及ぼしあい、お互いを映し合う「親子相関の原理」がある。倫理研究所は70年前からこの原理に根差した家庭教育の在り方を訴えてきましたが、未だに常識にはなっていません。

また、現代社会は物を扱う技術に偏り過ぎているために、人間をもまるで機械のように「操作的態度」で扱い、他人を自分の意のままにしたいという態度が、潤いのない沙漠のような心をつくり人間関係や社会を荒ませる。

2. 特集 「青年活動」 (P14~29)

H27年にノーベル医学生理学賞を受賞した**大村智博士**は、若人にメッセージを送りました「成功した人は誰よりも失敗した人です!」若い時に迷いがあるのは自然です。例えつまづいても壁に突き当たっても、それは必ず次に活かせます。志を持ち、一つの物事に一所懸命にあたきましょう。

①13歳から30歳の未婚者が対象の青年活動。「青年倫理塾」は、同じ世代の人が生き方を学び合っています。

②沙漠緑化青年隊では、中国の日本語学科の青年たちと共に植林を行い、友好を深めてきました。スピーチ要約。

- ・中国には私以上に日本について詳しい青年がいました。教員志望なので、この経験をお子たちに伝えたい。
- ・地球環境を良くしたいという気持ちが私達を交流させ、両国の若者は深い絆で結ばれました。嬉しい。
- ・メディアで様々な情報が流れますが、自分の目で状況を見て私達と話しして中国を知ってもらえてよかった。

③沙漠緑化活動で深めた、日中青年の交流と友情。第64次沙漠緑化青年隊は今年で10年の節目を迎えた。

- ・日本は、45名の申し込みがあり、男性14名、女性20名が選ばれました。平均年齢22歳。
- ・中国は、応募400名から、8大学から75名の参加です。
- ・遠山先生のプロジェクトXの映像を観て、広大な沙漠に400万本を超える森を目の当たりにして、感動する。
- ・大自然での無心な作業で、心洗われ素直になる。交流期間は5日間ですが、青年達の人生が凝縮される様です。
- ・青年緑化隊は、日中の友好を深める使命を担い、純粋倫理に繋がる青年が増える、大変貴重な体験の場です。

3. グローバル時代の倫理運動・バングラデシュ「誠実、勇気、謙虚さ・・・を土台として」 (P36,37)

2014年7月「日本倫理学習センター」が開校。2人の真心が、県内207校の生徒に学習の機会を与えた。

4. わくわく子育て親育て「生まれてきてくれてありがとう。誕生の喜びをいつまでも。」 (P54,55)

「子供は親を選んで生まれてくる」(胎内記憶)、親にとってこんなに嬉しい言葉はない。丸山敏雄先生は、『子は預かりもの。魂が天地の恵みから母体に宿り、父母の肉体を借りてこの世にあらわれ、一人前になるまで両親に預けられたものです』(学童育児の書)を選んでくれてありがとう。子供が授かった時の喜びや感謝を忘れずに。

週刊誌で、ビートたけし「オイラの進学論」を読んで、その考えに痛く共感しました。『大卒か高卒か?なんて評価基準はもう時代遅れ。「職人」の世界がいい。培った技術や芸は裏切らない。親方との付き合いの中で「人間の情緒」も覚えて行く。特に清宮や藤井四段みたいに「自分の道」が定まってて能力も折り紙付きならなおさら。豊田真由子議員は、東大からキャリヤ官僚になりハーバード大学まで留学、受験戦争では最高の勝ち組だが、歪な価値観に染まっている。子供の内に痛い目に合うこと必要。親は、傷ついた時に耐えられる躰をやる事が大事!』